

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000679		
法人名	有限会社 すいせん		
事業所名	グループホームすいせん高鍋		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江6649-145		
自己評価作成日	令和4年1月12日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和4年2月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のその人らしさを尊重し、自信や生き甲斐を取り戻して頂けるよう努め、居心地が良く笑顔の絶えない環境作りに努めています。また、庭が広く花壇には、花や樹木があり日当たりも良く、四季を感じながら外気浴も楽しめる環境です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた中、広い庭に面したリビングは日当たり良く、利用者がゆっくりと居心地よく過ごせるようになっている。近隣にはコンビニエンスストアやアイスクリーム屋があり、コロナ禍で思うように活動できてないが、散歩を兼ねた買い物は利用者の楽しみとなっている。職員は理念に沿ったケアの実践に取り組み、特に、利用者への言葉かけを大切にしており、利用者の立場に立ち、日々の状況に合わせて聞き取り易いようゆっくり、納得されるまで時間をかけ接することで、利用者の笑顔を引き出せるように努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームすいせんの基本理念1～3について定例会、施設内研修の話し合いの場を設け、職員間で共有し実践に繋げている。	法人の理念を職員全員で話し合い、利用者一人ひとりのペースを大切にケアを実践している。また改善すべきところは常に話し合いながら、目標の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は、地域の祭り等の参加や慰問にも来て頂いていましたが、コロナ感染拡大防止の為、交流が減少しています。	コロナ禍で、地域交流は困難になっているが、運営推進会議を通し、出席者から地域の様子を伺い知ることができている。施設周辺の散歩では、地域の方と挨拶や会話を行うことができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への認知症の方の理解も含め、運営推進会議での報告連絡を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大防止の為、郵送対応にて開催し、意見交換を行い施設内、利用者様の状況報告を行っている。	コロナ禍で、開催できないときは利用者状況等を郵送し、アンケート形式で評価、要望、助言が出し易い工夫をして、サービス向上に繋げている。また、報告書を関係者に直接持参し報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内状やコロナ禍の為、資料等を持って直接訪問した際に、分からない事を聞いたりし、その場や電話で助言を頂き運営に取り組んでいます。	運営推進会議の出席で相談や意見を貰うとともに、役場に出向き相談やアドバイスを受けるなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を年2回行い、職員間で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修で得た情報をもとに、全職員で話し合いを重ね、資質の向上に繋げている。また、運営推進会議を通して、役場や包括支援センター職員の意見をもらうなど、正しい理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉かけや行動が、身体拘束や虐待に繋がらないか、職員間で話し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいらっしゃると思いますが、難しい事や分からない事も多いので、研修会や勉強会の検討をしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に時間を取って頂き、説明を行い不安や疑問点がないか確認したうえで、署名捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などご家族や利用者様の意見やご要望を確認し、職員間で話し合いケアに反映できるように努めている。	コロナ禍で面会できないときは、家族に電話して状況報告を行い、意見や要望を聞いて運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍により出勤者のみ会議をおこない、定例会ノート、申し送りノートを活用し意見交換に努めている。	管理者は、定例会等ばかりではなく、職員が自由にいつでも意見交換ができるよう、話し易い環境作りを心掛けている。職員の意見から、一人体制を見直し、利用者の安全確保と職員の負担軽減に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や要望を聞き、やりがい、向上心を持って働いて下さるよう労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、資格所得やグループホーム連絡協議会の研修にも参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により交流が、難しくなっているが、リモート等活用し参加できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご家族と本人様の要望、不安など聞き取り調査を行い、ご家族から多くの情報を入手し、本人様が安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族、本人様の思いを傾聴し話しやすい雰囲気づくりを心掛け、ご家族とより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、本人様に必要な支援を確認しながら、ご家族、本人様が納得された支援内容が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意とする分野を会話の中から見出し、職員と一緒に物づくりなどし、利用者様に寄り添いお互いに、支えあえる関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、相談や本人様の状況を伝え「何ができるか」を確認しながら、時には、ご家族の協力をお願いするなどし支援ができるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、外出、外食支援が難しく、お手紙や電話を活用し関係が途切れないよう努めています。	ホームから電話を入れ、家族との会話を楽しんでもらったり、手紙や年賀状のやり取りが継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション時などでコミュニケーションを図り、テーブル席では、精神状態によってトラブルになりそうになる場合は席替えなどをして、良好な関係が継続できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も、ご家族、関係機関からの連絡により、フォローや相談に応じ、できる限り支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの要望、希望を聞き、本人様の言動や行動を把握し、本人本位であるよう心掛け支援に努めている。	利用者の会話や表情の中から、思いや意向をくみ取ることができるよう、寄り添うケアに努めている。また、困難な場合は、家族や関係者からの情報をもとに、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話の中で、生活歴や暮らし方などを伺ったり、ご家族の面会者から情報を収集し把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や一人ひとりの心身状態、言動を確認しながら、本人のペースで過ごして頂かれるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族の希望や意向を聞き、担当介護員との意見交換を行い、本人様に合った介護計画を作成し、支援できるように努めています。	担当職員を中心に、本人や家族のニーズの把握を行っている。また、他職員や関係者からの意見を反映し、現状に即した介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりのその日の体調や調子を観察し、ケアの実践を行い、気づいた点や様子を介護記録にて情報を共有し、会議で意見交換を行い見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所されて間もない利用者様で、ご家族の意向もあり週1回のペースで面会に来られるご家族もいらっしゃいます。又、仕事の要求もあり、作業の支援ができるように取り組んでいる。		

宮崎県高鍋町 グループホーム「すいせん高鍋」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、外部との交流が難しくなっています。コロナウイルス感染症が落ち着いている時に、理美容等にきて頂き交流を図れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診の際は、前もってご家族へ連絡し、できる限り付き添って頂けるようにしている。又、入所後初めての受診の際は職員も同行し、何時でも相談できる体制を築き、ご家族の付き添いが難しい時は、職員が付き添い医療を受けられるように支援している。	希望するかかりつけ医で、家族と一緒に病院受診を行うほか、必要時には職員が受診時に同行し、情報提供や医療機関との連携を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	コロナウイルス感染拡大防止の為、訪問看護の定期訪問は、電話での報告をし、コロナウイルス感染症が落ち着いているときは、ホームへ来て頂き、利用者様の様子を見て頂いています。又、24時間体制で、相談できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院直前までの情報書を作成、提供しコロナ禍で本人様への面会はできないが、洗濯物を取りに行くなどし医療機関の定めに応じ、情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、本人様とご家族に週末ケアについて説明を行い、事前確認書に同意を頂き、必要時に再度意向を確認し協力医、訪問看護、ご家族共に支援していけるように取り組んでいる。	入居時に看取りに関する意向を確認し、定期的にその意向の把握や再確認を行っている。本人、家族、協力医、訪問看護、職員で情報を共有しながら、チーム一丸となって希望に添えるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	何時でも、目が通せるようようにマニュアル本や手引きを棚に設置し、事故発生時や急変時に備えて「緊急時利用者連絡網」を備え誰でも連絡ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウイルス感染拡大防止の為、消防設備業者による消火訓練と消防本部への通報訓練を実施し、日頃より近隣の方との交流を図り応援依頼も行っている。	マニュアルを作成し、利用者とともに災害対策訓練を年2回行い、地域との協力体制を築き、必要な備蓄にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言葉かけには、表情を見ながらゆっくりと話すように心掛け、一人ひとりの尊厳をもって対応できるように日頃から、努めている。	一人ひとりの尊厳ある姿を大切にし、表情や様子観察に心がけ、人権意識を徹底している。プライバシーを損ねるケアに留意し、日常的な確認と改善に向け取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の細かい仕草や表情等を観察したり、自己決定ができるように選択の工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の行動を止めずに、見守りながら支援し、夕食後、テレビ・読書・部屋で過ごしたいかを聞き希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床後パジャマから洋服への更衣時、タンスから2着用意し利用者様に選んで頂いている。又、整髪では、拘りがあり自分で櫛を持って整えられるように洗面所・自室にも櫛をおいてある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みの食べ物や旬の食材を献立に取り入れ、食材の皮むき、小鉢の取り分けなどの準備を職員と一緒にこなしている。	食事前の手の消毒や距離を取ったテーブル席などの感染対策を行い、利用者の嗜好を反映した食事の提供や力量に合わせて準備等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いのある利用者様には、食材を小さく切ったり、味を変えたりし完食して頂けるように工夫している。食事のときは、お茶を提供しているが、食事以外では、甘い飲み物を提供し水分が摂れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い口腔ケアの誘導を行い見守りをし、利用者様によっては不十分な時もあり、声掛けを行って口腔内の清潔が保たれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立しているかたは、見守りや本人様に声かけし確認を取っている。一人ひとりの排泄パターンや体調を考慮しトイレで排泄して頂けるように支援している。	本人に合った排泄パターンの把握に努め、自立に向けたトイレでの排泄を支援している。また、排泄パターンに応じた個別の排泄支援により、おむつやパットが軽減できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や運動、腹部マッサージ、定時のお茶やヨーグルトを提供し利用者様の嗜好に応じた水分などを活用し、便秘予防に努めている。又、便秘時には、主治医に相談し指示を仰ぎ対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の状態や気分に合わせて入浴が行えるよう柔軟に支援し、又、入浴剤も使用するなど、入浴を楽しんで頂けるように支援している。	その日の体調に合わせて心に寄り添い、無理強いをしないで希望に合わせて、季節湯や入浴剤を使用し、くつろいだ入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝、午睡は、利用者様の時間に合わせ、体調や足の浮腫などに応じ臥床を促し、不眠の方には、寄り添い話をしたり、テレビを観たりし眠れるように環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬や緊急の常備薬を保有し、個人の役表や特変時の対応等、職員が分かるようケース記録に添付している。内服変更は、申し送り確実に全職員が確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意なこと、好きなことを日頃から観察し、日常の中で発揮できるよう支援し、誕生日会、月の行事も行い楽しんで頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症拡大防止の為、外出、外食の支援ができていないが、近隣の散歩、外気浴を行い温かい日は、デッキにて体操、お茶等の支援をしている。	感染対策を行い、行事や日常的な活動を支援し、近隣での散歩、デッキでの外気浴や体操、歌、茶話会等で気分転換を図れるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症利用者共同生活の為金銭的なトラブルは発生しやすく、お金を所持されている方への配慮はしている。現在コロナ禍の為、買い物支援は控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方への電話連絡、手紙等はご本人様の希望に応じ、何時でも連絡が取れる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所、浴室、トイレ等は十分な広さがあり、ゆっくりくつろげる様に努めている。又、デッキへも出ることが多く、生活への刺激が持てるように工夫している。	玄関、建物周囲は訪問しやすい家庭的な雰囲気、感染対策や室温調整された共用空間とデッキは、心身の活動を引き出せるように生活感、季節感を採り入れている。調理中の職員との会話が居心地よい安心な場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は、利用者様が不快な思いをされない様に音量や障害物に配慮し、季節を感じられる様装飾にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時、使用されていた物を持ってきて頂いている。ご家族の写真を置いて、常に観覧できるようにされている方もいる。家具の配置は、本人様の希望を重視している。	自宅で慣れ親しんだ家具、椅子や生活用品、装飾品等が持ち込まれており、ベッド等の位置、方向も本人や家族に聞き、落ち着いた雰囲気の中で安心して過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントに基づいた状況を職員全員が把握し、できることを活かした作業を提供している。レベル低下による事故防止の為にレクリエーションを行っている。		